

一般社団法人 岩の力学連合会
平成 30 年度・第 2 回理事会 議事録

日時	平成 30 年 10 月 12 日 (金) 14:00-17:30	場所	資源・素材学会会議室
----	-----------------------------------	----	------------

理事会	理事長	新 孝一	○	理事	奥野 哲夫	○	理事	西村 強	●
	副理事長	岸田 潔	○	理事	清木 隆文	×	理事	芥川 真一	×
	幹事長	岡田 哲実	○	理事	森岡 宏之	○	理事	長田 昌彦	○
	理事	谷 和夫	○	理事	児玉 淳一	×	理事	下田 直之	×
	理事	小山 倫史	×	理事	伊藤 高敏	○	理事	横尾 敦	×
	理事	齋藤 禎二郎	×	理事	佐藤 晃	○	理事	上田 日出男	×
	監事	西本 吉伸	×	監事	細野 高康	○	ISRM 役員	清水 則一	●
	ウェブサーバー	安原 英明	●	ウェブサーバー	藍檀 オメル	○			

敬称略順不同, ○: 出席, ×: 欠席, ●: スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 30-理 2-01	1	平成 30 年度・第 1 回理事会 (書面審議) 議事録 (案)
資料 30-理 2-02	3	社員総会議事録
資料 30-理 2-03	6	臨時理事会議事録 (案)
資料 30-理 2-04	7	平成 30 年度・第 2 回常任理事会議事録 (案)
資料 30-理 2-05	13	会員の入退会
資料 30-理 2-06	15	国際シンポジウム 2019RDS
資料 30-理 2-07	16	国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019
資料 30-理 2-08	21	火山に関する国際ワークショップの覚書
資料 30-理 2-09	25	連合会賞選考委員会
資料 30-理 2-10	27	ILC 委員会
資料 30-理 2-11	28	賛助会員特別会議
資料 30-理 2-12	31	岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション
資料 30-理 2-13	33	賛助会員特別会議提言を受けた講習会 (案)
資料 30-理 2-14	36	代議員選挙に向けてのスケジュール
資料 30-理 2-15	43	2018 ISRM Council Meeting & Asian Council Meeting Agenda
資料 30-理 2-16	45	ISRM への会費支払
資料 30-理 2-17	46	土木学会第 46 回岩盤力学に関するシンポジウム共催
資料 30-理 2-18	47	ISRM 14 th International Congress 査読について
資料 30-理 2-19	51	H30 年度各委員会予算

【議 題】

- 平成 30 年度 第 1 回理事会 (5/31 書面会議) 議事録の承認* (岡田) 資料 30-理 2-01
修正なく議事録は承認された。
- 平成 30 年度 定時社員総会議事録の承認* (岡田) 資料 30-理 2-02
修正なく議事録は承認された。
- 平成 30 年度 臨時理事会議事録 (案) の承認* 資料 30-理 2-03
修正なく議事録は承認された。
- 平成 30 年度 第 2 回常任理事会 (8/10) 議事録の確認 (岡田) 資料 30-理 2-04
議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。
- 会員の入退会の承認* (岡田) 資料 30-理 2-05
平成 30 年 3 月 20 日～平成 30 年 5 月 15 日の会員の異動に対して、慰留を試みた 1 名 (大塚氏) を慰留できたことが報告された。また、平成 30 年 8 月 3 日～平成 30 年 10 月 5 日の会員の異動に対して、2 名の入会が承認された。

6. 国際シンポジウム Rock Dynamics2019 について (藍檀) 資料 30-理 2-06
前回 (8/10) 常任理事会議事録において、修正した予算案を紹介することになっていたが、予算の詰め作業が間に合わなかったことが報告された。また、シンポジウムの準備状況、アブストラクトの投稿数、国際的に論文のインデックス番号が得られるように CRC-Press に相談しながらテンプレートを準備したことなどが紹介され、以下の質疑があった。

- Q. どのようにすれば国際的なインデックス番号が得られるのか。
A. 例えば、CRC-Press 等の出版社に依頼するのが簡単である。
C. ARMS8 の時には、ISRM の One Petro に登録したので、国際的なインデックス番号が付いているし、Scopus にも登録されている。つまり、海外の出版社を使わなくても、One Petro に登録すれば、インデックス番号をつけることは可能である。
Q. One Petro に登録すれば、自動的にインデックス番号が得られるのか。
C. One Petro に登録する手間はかかるが、その通りである。海外の出版社を通した場合、2 年間は One Petro に掲載できなくなる。One Petro に登録すれば、海外の雑誌を購入しなくても 1 編ごとに論文が購入できるので便利である。これが ISRM の貴重な収入源にもなっている。ただ、ISRM としては、オーガナイザーの考え方に任せており、One Petro に最初から登録することを強要してはいない。いずれにしても、ISRM がスポンサーのシンポジウムは最終的には One Petro に登録されることになる。
Q. インデックス番号はそれほど重要なのか。
A. 昔はそれほど気にしていなかったが、最近は気にする人が多い。
Q. 修正した予算については、後日メールで確認していただく方法でよいか。
A. 承知した。

以上より、2019RDS の内容については基本的に了承された。ただし、修正された予算書については、後日メールで理事に確認していただくこととなった。

7. 国際シンポジウム火山 (仮) について (長田) 資料 30-理 2-08
国際シンポジウム火山 (仮) に関して、岩の力学連合会と応用地質学会の共催の覚書が締結されたこと、2021 年開催でこれから実行委員会を作る予定であることなどが紹介された。特に、質疑はなかった。

8. 委員会審議・報告事項

- 1) 編集委員会 (谷) 資料なし
特に報告はなかった。
2) 国際技術委員会 資料なし
特に報告はなかった。
3) 電子ジャーナル委員会 資料なし
特に報告はなかった。
4) Rock Net 委員会 資料なし
特に報告はなかった。

- 5) 連合会賞選考委員会 (岸田) 資料 30-理 2-09
募集中の「博士論文賞」については、1 件の応募があったこと、「論文賞」「技術賞」「フロンティア賞」の募集が始まり、例年どおり 1 月初旬に締め切り、3 月にヒアリングを行うこと、などが報告され、以下の質疑があった。

- Q. 博士論文賞については、Rocha メダルに推薦するのか。
A. 例えば、博士論文賞に 3 件の募集があって、そのトップだけが博士論文賞となるが、一定の基準以上あれば、日本から 2 件を Rocha メダルに推薦できるので、推薦については 2 件行ってもよいと考えている。
Q. 博士論文は英語でないと駄目なのか。
A. 本文は日本語でよいが、プロポーザルは英語である必要がある。よって、博士論文賞の応募では Rocha メダルの募集要項に合わせた 5000~10000word の英文サマリーを提出してもらうことになっている。日本語で博士論文を書いた人には、敷居が高くなっていて、応募が少ない可能性もある。Rocha メダルには年齢制限があるが、博士論文賞は年配の人がとってもよいのではないかと

個人的には考えている。今までは、博士課程の人で英語で博士論文を書いた人が応募してきている。門戸を広げるのであれば、日本語でも良い事を強く示すべきかもしれない。

- C. 日本語でも良い論文であれば、委員会で英語化を支援する方法もあるのではないか。
- C. ここ数年、応募数1件が続いているので、応募が増える方法を考えた方がよい。
- Q. 資料25ページの論文賞に記載の「ただし、上記の～対象となります。」の文章がわかりにくい。
- A. この意味は2年間で出した論文に加え、その1年前に出ている関連論文と合わせて総合題目で応募してもよいという意味である。
- C. 読者に理解しやすい文に修正した方がよい。

6) 総務委員会 (岡田) 資料なし
特に報告はなかった。

7) ILC 委員会 (岡田) 資料 30-理 2-10
ILC に関する意見交換会のお知らせが Rock Net に掲載され、まだ定員に余裕があることが紹介された。特に、質疑はなかった。

8) 賛助会員特別会議* (奥野) 資料 30-理 2-11, 資料 30-理 2-19
賛助会員特別会議の平成 30 年度第 1 回運営企画特別委員会が開催され、その概要と今年度の賛助会員特別会議を 12 月に地盤工学会で開催する予定であることが紹介された。また、賛助会員特別会議において講演会を開催し、その講師の謝金と交通費 (合計 8 万円) について補正予算の申請があり、以下の質疑があった。

- Q. ドローン測量教育研究機構とは、企業なのか。
- A. 一般社団法人で、大西先生が代表理事をされている。
- Q. 補正予算を組み直す必要があるか。
- C. 今年度の委員会関係の予算が 51 ページに記載されている。賛助会員特別会議で確保している予算は、会議費の 25000 円のみである。Rock Net 委員会や電子ジャーナル委員会で旅費を合計 55 万円計上しているが、昨年度はメール審議のみで、会議は 1 回も開催されなかった。よって、今回の申請の 8 万円程度であれば、本日の理事会の承認で認めてもよいのではないかと思う。
- C. 現状では会計のルールは決まっていないが、当初予算の超過の許容を 15% とか、25% とか決め、それ以上の場合に更正予算の審議をするなど、会計のルールを本来決めておいた方がよい。
- C. 基金を取崩すということであれば、更正予算の審議を行う必要があるが、今回の場合については必要ないのではないかと思う。
- Q. 予備費はとってあるのか。
- A. 予備費としてはとっていないが、各委員会から出た予算案に対して、少し余裕を見ている。
- C. 予算が余りそうなところから少しずつ減らして、総額が当初予算と合うように、もう一度予算を組み直さないと、収集がつかなくなるのではないか。
- C. 本日は Rock Net 委員会委員長も、電子ジャーナル委員会委員長も参加されていないので、予算が余るかどうかはわからない。
- C. 予算については、精査しておかないと、赤字体質になる可能性がある。
- C. 自助努力で節約し、その分を必要なところにまわせるような仕組みにした方がよい。
- C. 各委員会の予算は総会の予算書の中には記載されないで、委員会の中で流用しても問題ないと思う。ただ、予算がどの程度残っているか、途中の段階で精査をしておく必要があると思う。
- C. 予算の使用状況を理事会の度に確認しないと、予算は有効に使うことができない。

以上より、今回の賛助会員特別会議の講師の謝金と交通費 (合計 8 万円) については承認された。また、次回理事会より、予算の使用状況を確認しながら、ルール作りについても検討していくこととなった。Rock Net 委員会と電子ジャーナル委員会には、今年度の予算の使用予定について、幹事長より問い合わせることとなった。

9. 国際シンポジウム YSRM&REIF2019 について (安原) 資料 30-理 2-07
YSRM&REIF2019 の準備状況、Bulletin 2nd などが紹介された。また、寄付者を公開することが問題ないことを JNTO に確認したため、寄付をいただいた会社のロゴをパンフレット等に掲載の予定であること、また、海外からのスポンサーシップを集める計画であることが紹介され、以下の質疑があった。

- C. 寄付者の公開に関する JNTO への確認については、メール等で証拠を残しておいた方がよい。
- A. 既にメールで確認し、回答を得ている。
- C. 海外の企業も日本に支店があれば、減免処置が受けられる。

- Q. 個人寄付についても名前を出すのか。
- A. 個人寄付の名前は出さないつもりである。会社の寄付は宣伝になるのでパンフレット等にロゴを掲載するつもりである。
- C. ARMS8 の時には、JNTO では寄付者の宣伝になることは許されなかった。担当者が変わると違うことを言う可能性もあるので、メール等の証拠は残しておいた方がよい。
- A. 過去にもロゴを掲載した事例はあるらしいので、問題ないという回答のメールを受けている。
- C. 寄付の精神として、発展途上国などから来る人を助けようというものであることをご配慮いただきたい。
- A. 寄付はスカラーシップに充当することをスポンサーシップのところにも書いて、Web 上で公開しようと考えている。
- Q. 他の助成金も申請しているが、JNTO では利益を出してはいけないことになっている。ARMS8 の時は、利益の分を管理費とし、JNTO へは収支 0 にして報告していた。今の予算で収支が 0 だったとした場合、さらに助成金が入った場合、その使い方について、早めに計画を立てておかないと、逆に利益が出て困らないか。
- A. 収入が増えるのであれば、もう少し派手にできるところはやりたいと考えている。収支でプラスになりすぎたら駄目なことは理解している。今の予算案では、学生以外の参加者が増えれば増えるほどプラスになるが、学生が増えた場合にはマイナスになる。JNTO の現担当者は正直ベースで話せる人なので、プラスになりそうな場合にどのように処理したらよいかについても聞いておきたい。
- C. 助成金が入れば参加費を安くできるので、公的な助成金は取りに行ってもいい。
- A. 場合によってはキャッシュバックしてもよいと思う。
- C. 会計が複雑になるので、キャッシュバックは難しいと思う。

以上より、YSRM&REIF2019 の内容、ロゴの掲載やスポンサーシップ等については基本的に了承された。

10. 岩盤力学シンポジウムオーガナイズドセッションについて (岡田) 資料 30-理 2-12
 岩盤力学シンポジウムオーガナイズドセッションについて、講演の候補者 3 名に依頼し、1 名は辞退され、1 名 (立命館大学、川方教授) からは内諾を得られたこと、1 名からは未回答であることが紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 3 名の講演者を 2 名にして、もう少し講演時間を増やした方がよいのではないか。
- A. 確かに一人 20 分では短すぎるかもしれない。
- C. 岩盤力学委員会論文小委員会より、最終的なプログラムの締切りが 11 月 10 日であり、10 月中には講演者を連絡してほしいとのことだった。また、JSRM オーガナイズドセッションの時間は 15 時半~17 時で、場合によっては 30 分ほど繰り下がる可能性があるらしい。

以上より、講演者を 2 名とすることになった。現在未回答の講演者が辞退した場合の人選については、幹事長に一任することとなった。

11. 2018 ISRM Council Meeting & Asian Council Meeting (新) 資料 30-理 2-15
 2018 ISRM Council Meeting & Asian Council Meeting の概要が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. Asian Council Meeting の ARMS11 の開催地については議論になりそうか。
- A. わからないが、基本的には投票によらず、話し合いで決めたい意向らしい。
- Q. ISRM Council Meeting の議題 16 で、オーストラリアと Board の両方から出ている By-law No.2 の改定についてはどのようになりそうか。
- A. 総裁選挙に関して、オーストラリアが各個別のナショナルグループが事前にアナウンスしてもよいという提案をおり、これに対して Board の方は、事前のアナウンスは駄目だという提案をしている。よって、議論になり、投票しなければならないかもしれない。
- C. 2024 年の ARMS について日本が手を上げるなら、次期執行部はアクションを考えていかなければならない。

以上より、Council Meeting の投票の場合には、理事長に一任することとなった。

12. 賛助会員特別会議提言を受けた講習会について (岡田) 資料 30-理 2-13
 賛助会員特別会議提言を受けた講習会の案が紹介され、以下の質疑があった。

- C. 講義なので、最新の初期応力測定というのは少し違和感がある。

- Q. 若手の人が参加するイメージか。
- A. おそらく基本はそうだが、今まで軟らかい地盤の現場を携わってきたが最近トンネルの現場に来たというようなケースで年齢が高い人も参加する可能性はある。いずれにしても、岩盤に関しては、比較的初心者がターゲットである。
- Q. 講義1回ごとに参加者の募集を行うのか。
- A. 1回ごとにするか、2回ごとにするか迷っている。
- Q. 各回の日程は予め決める必要があるが、5回の参加者を一度に募集した方がよいのではないか。例えば、表に○をつけてもらうようにしてはどうか。
- A. 事務的にその方が楽なのでよいと思う。
- Q. 賛助会員限定として、募集の方法はどうするのか。
- A. 賛助会員限定ではなく、個人会員でもよいと考えている。
- C. 個人会員が多数を占めて賛助会員が少なくなることが危惧される。
- Q. 募集を Web ページに出す前に賛助会員に連絡してはどうか。
- A. 賛助会員だけで20名集まった場合、個人会員にはアナウンスしないことになってもよいか。
- C. アナウンス時に賛助会員を優先しますと記載しておけばよいのではないか。
- A. 賛助会員に先に参加者を募集し、その結果を見てから個人会員にも募集をかけるようにしたい。賛助会員のみで、満席の場合には、賛助会員優先ということで断ることとしたい。また、全5回の募集は一度に行うこととしたい。
- Q. 例えば、賛助会員で個人では非会員のひと、賛助会員かつ個人会員の人が応募された場合、賛助会員の中で調整するのか。
- A. 基本1社1名だとすると調整していただくしかないと思う。
- C. 個人会員を増やしていくのか、賛助会員の団体に学会の存在をアピールするのか、よく考えた方がよい。非会員、個人会員、賛助会員の優先順位の整理が必要ではないか。
- A. 優先順位から言うと、今回は賛助会員特別会議の提言に基づく講習会なので、賛助会員をメインに考えさせていただきたい。
- Q. 賛助会員の中で2人参加したいという場合、個人会員がいれば、個人会員の資格で応募すればよいのか。
- A. 今の文案だと1機関1名限定と書いてある。
- C. 参加者が多い場合には1機関1名に限定させていただく場合がある、と記載すればよい。
- C. 関東の人は近いので、1日1回でもよいが、地方の人は毎回来ることが難しい。
- Q. 参加者20名とのことだが、机が9個あるので、机1つに2名なら18名、机1つに3名なら27名ではないのか。
- A. 人数については、過去の実績等を事務局に確認したい。
- Q. 参加費1000円とのことだが、1日で2回実施した場合は2000円ということか。
- A. 実費ということだと1000円にせざるを得ないと思う。
- C. 募集の補足に講師の先生方と食事中に懇談する場を設けることを書いた方がよい。

以上より、講師の先生方に文案を再確認していただくとともに、日程調整を行うこととなった。また、募集の文案については、メールで再確認いただくこととなった。

13. 代議員選挙に向けてのスケジュール (岡田)

資料 30-理 2-14

代議員選挙のスケジュールについて紹介があり、以下の質疑があった。

- Q. 選挙管理委員長は現在土木学会だが、今度は資源素材学会になるのか。
- A. 各学会の内訳が厳密に決まっているわけでもない。森岡理事には既にお願しているもので、あと4名を各学会から1名ずつ出していただくという形にしたい。
- C. 正式に各学会に書類を送る時間がないので、各学会の担当理事に人選を先にお願したい。土木学会は清水理事、地盤工学会は谷理事、資源・素材学会は伊藤理事、材料学会は西村理事である。各学会宛の依頼の書面は後日送付させていただくこととしたい。
- C. 今後、各学会から、代議員や理事も選出して頂く必要があるので、重複ができないことを考慮して選出していただく必要がある。
- C. 代議員は2年間で総会に2回出席していただく必要がある。選挙管理委員は基本1年で2回出席していただく必要がある。代議員の旅費は出ないが、選挙管理委員の旅費は出る。
- C. 代議員で注意が必要なのは、正会員で3年以上の会員歴を有し、会費を完納している人でなければならない。代議員は資源・素材学会から7名、その他の各学会から各3名である。
- C. 今の各学会選出の代議員と理事のリストをつけて、各学会の担当理事に送付したい。
- C. 代議員の選出は急がないが、選挙管理委員の選出は10月中に実施していただきたい。
- C. 選挙について、2月の初旬に事務局に投票用紙を発送してもらうが、前回、会費の請求書と一緒に投票用紙を入れて発送し、結果として、投票の回収率がかなり下がった。今回は、別にするか、

かなり入念にアナウンスする必要がある。

以上より、早急に各学会の担当理事より選挙管理委員の選出していただき、メール審議にて理事会の承認を得ることとなった。

14. その他

1) ISRM への会費支払

資料 30-理 2-16

ISRM への会費支払が完了したことが報告された。特に質疑はなかった。

2) 土木学会第 46 回岩盤力学に関するシンポジウム共催

資料 30-理 2-17

土木学会第 46 回岩盤力学に関するシンポジウム共催依頼を受諾したことが報告された。特に質疑はなかった。

3) ISRM 14th International Congress 査読について

資料 30-理 2-18

ISRM 14th International Congress 査読を電子ジャーナル委員会にお願いし、了解を得られたことが報告された。特に質疑はなかった。

15. 今後の予定

以下のとおり、今後の予定が紹介された。特に質疑はなかった。

- 1) 第 3 回理事会（書面審議）：選挙管理委員会の承認
- 2) 選挙管理委員会スタート：11 月上旬
- 3) 次年度予算，事業計画のとりまとめ：12 月下旬
- 4) 第 3 回常任理事会：1 月中旬
 - ・事業計画，予算案（1 次案）
 - ・次期体制（代議員選挙）
 - ・各学会に理事の推薦依頼の送付
 - ・社員総会に日程確定
- 5) 選挙開票：3 月上旬
- 6) 第 4 回理事会：3 月中旬
 - ・事業計画，予算案の承認
 - ・決算案
 - ・総会議事次第の確認
 - ・連合会賞の承認
- 7) 業務・会計監査：4 月中旬
- 8) 平成 31 年度第 1 回常任理事会：5 月初旬
 - ・総会資料の確認
- 9) 平成 31 年度第 1 回理事会（書面審議）：5 月中旬
 - ・総会資料の承認
- 10) 社員総会：5 月下旬～6 月初旬

※決議・承認事項

以上